



新しく生まれ変わった 移動図書館 わかあゆ号

宝くじ助成金で整備



友達と連れ立って遊びに来る子ども



2600冊の蔵書からお気に入りの本を借りられる



車内には大人が楽しめる本が並び



車いすに乗ったまま安全に乗り降りできるリフトを搭載

厚木市 わかあゆ号

検索

市HPや広報あつぎ15日号で巡回日をお知らせしています。

中央図書館 ☎223-0033

わかあゆ号は、未知の世界への入り口を荷台いっぱいに乗せて、皆さんの身近な場所へとやって来ます。春休みはおうちの近くから、新しい物語に触れてみませんか。

2週間ごとに市内の児童館や公園など22カ所を巡り、地域の皆さんに本を届けている移動図書館・わかあゆ号が、2月にリニューアルしました。1978年の巡回開始から6代目となる車体には新たにあゆこロちゃんをあしらひ、車いす用のリフトを付けたことで、より誰にでも使わやすくになりました。

深い海の底やはるか遠くの星、草花や動物たちとおしゃべりができる世界。本は、誰も行ったことのない場所へと私たちを連れ出してくれます。思い思いの一冊を手にした子どもたちは、一人で物語に没頭したり、大人に読み聞かせてもらったり、お気に入りのページを友達と見せ合ったりと、それぞれ読書を楽しんでいます。

Zoom Up

人や地域とつながるきっかけに

自治会活動に参加しよう

自治会は、住民同士が力を合わせ住みよい地域をつくるための組織です。市内には216の自治会があり、地域ごとに特色ある活動を展開しています。活動を通じた交流は、地域の安全性も高めます。皆さんも自治会活動に参加しましょう。

市内には約10万世帯の方が暮らし、65%ほどが自治会に加入しています。自治会の活動は、防災をはじめ防犯、福祉、環境美化、広報、交流イベントなど多岐にわたります。近年、特に注目されているのが防災の活動です。9年前に起きた東日本大震災をきっかけに、近くに住む人同士で助け合う「共

交流から生まれる安心

市内では自治会ごとに自主防災隊が

助」の重要さが叫ばれてきました。いざという時に素早く動くには、普段から地域の住民同士がつながり、声を掛け合う関係づくりが大切です。



防災訓練などで顔を合わせることが安心・安全につながる



子どもたちを見守る愛の目運動



本厚木駅前自治会加入を呼び掛け



普段からのつながりがいざという時の力に

市自治会連絡協議会
会長 山口 泉さん (69・温水)

自治会は、住みよい地域をつくるために無くてはならない存在です。台風や地震などの大規模な自然災害が起きる中、住民同士で助け合う「共助」の主体として、存在が見直されています。災害が起きた時に助け合うには、普段からのつながりが大切です。イベントや美化清掃、回覧板の受け渡しなどを通じて、多くの人と顔見知りになってもらいたい。日頃の交流が、いざという時の力になるはずですよ。

組織され、防災訓練などを実施しています。「東日本大震災から、訓練や日頃の備えを見直している。多くの住民が関わり意見を交わし、改善していくことが大切」。そう話すのは、厚木リバーサイド自治会会長の菊池美明さん(69・岡田)。相川地区の自治会連絡協議会でも会長を務めています。

菊池さんたちが担当する相川小学校の避難所運営委員会では、2年前から

子どもたちを見守る「愛の目運動」、きれいに管理されたごみ集積所、自宅に届く広報紙や回覧板。自治会の活動は、皆さんの普段の暮らしに密接に関わっています。

市では5年前、「市民ふれあい都市」を宣言し、市民協働のまちづくりを進めています(下欄参照)。誰もが住みよいまちをつくるには、住民同士の触れ合いやつながりが欠かせません。人や地域とつながるきっかけに、自治会活動に参加しませんか。

深めよう！
人と人の
つながり

市では、市民自治のシンボルとするため、市制60周年を迎えた2015年2月1日に「市民ふれあい都市」を宣言しました。市民参加と市民協働を基本としたまちづくりには、市民相互の「ふれあい」や「つながり」が欠かせません。

あつぎ市民ふれあい都市宣言

ふれあいの
家庭づくり



ふれあいの
地域づくり



ふれあいの
まちづくり

宣言の全文はこちら▶

[あつぎ市民ふれあい都市宣言](#)

検索

市民協働のまちづくり

市民の皆さんと共により良いまちをつくっていくために、二つの制度を設けています。

市民協働提案事業

市民活動団体と市が地域の課題解決などに向け、共に事業を実施する制度です。

《仕組み》申請団体がプレゼンテーションし、採択されると経費負担など市の支援が3年間受けられる。

《経費負担限度額》160~200万円

《実施例》フードバンク、子ども食堂、落書き消去活動など



家庭で余った食料を集め、必要な世帯に提供するフードバンク

市民活動推進補助金

市民活動をサポートし、より良い地域をつくるため、補助金を交付しています。

《仕組み》福祉、環境、教育、文化、子育てなど、要件を満たした事業に3回まで補助金を交付する。

《補助限度額》5~15万円

《実施例》市立病院でのボランティア、地域の交流拠点・居場所づくりなど



市立病院で、本の貸し出しや、絵手紙・写真の展示などをする「病院ボランティア21」

申請 毎年5月に受け付けています。詳しい内容は、広報あつぎ5月1日号や市HPに掲載。

[厚木市 市民協働](#)

検索

☑ 事故を防ぐ行動をチェック



信号は必ず守る



ながらスマホは道路交通法違反



カーブミラーで左右を確認



自転車はヘルメットの着用を



地域で子どもを守る

Q Zoom Up

新生活に向けてルールを再確認 交通事故に注意

引っ越しや入学などで生活環境が変わる3~4月は、交通事故が増える時期です。新しい生活を事故なく笑顔で迎えるため、運転者も歩行者も、通勤・通学時の危険箇所や交通ルールなどを改めて確認しましょう。

昨年、市内で起きた交通事故は過去最少の852件でした。歩道の整備や地域の皆さんによる子どもの見守り活動などが実を結び、件数は年々減っています。一方で、依然として重大な事故は後を絶たず、昨年は6人が命を落としています。

子どもの目線で危険を確認

これからの時期、特に交通事故に遭いやすいのが、入学したばかりの小学生1年生です。全国では、6年生の約8倍に上る年間41人もの子どもたちが死亡事故に巻き込まれています(2014~18年警察庁統計)。事故の多くは、道路を横断する際の飛び出しによるもの。左右の安全や車の停止の確認不足など、ちょっとした気の緩みや不注意が原因です。

厚木警察署交通担当次長の佐藤さんは「道路を渡るときは必ず止まり、左右を確認してから手を上げて渡るよう、家庭でも繰り返し子どもに伝えてほしい。運転者には、子どもが死角に隠れやすく、大人より視野も狭いことを認識して運転してもらいたい」と呼び掛けます。

自転車の事故に注意

市内で発生している事故の約20%は、自転車に関わるものです。自転車は、子どもから高齢の方まで誰でも利用できる便利な乗り物。一方で、車両としての認識が足りず、交通ルールや安全管理が軽視されがちです。近年、全国では相次いで高額な賠償請求を伴う重大な事故が発生しています。これを受けて県内では、昨年10月に自転車を利用する全ての人に損害賠償責任保険への加入が義務付けられました。

事故のなごみ取り

市では、市民の皆さんと協働で安心・安全なまちづくりを進めるセーフコミュニティの活動に取り組んでいます。見守り活動などの交通安全対策もその一つです。今年3度目の国際認証取得を目指す節目の年。改めて交通ルールを確認し、事故を防ぐ意識を持って新生活を迎えましょう。

☎交通安全課 ☎25-2760

心と時間にゆとりを持って



厚木警察署
交通担当次長
佐藤 定裕さん(56)

仕事やプライベートが忙しいと、歩行者も運転者も注意力が散漫になりがちです。年度末は慌ただしい時期ですが、落ち着いて過ごすよう意識しましょう。事故の多くは、横断歩道上で起きています。特に交通量が多い交差点は危険です。通学路や公園など、子どもが集まる場所の近くを車で通る際は、横断歩道があってもより一層の注意をお願いします。運転手は、歩行者優先を心掛け、思いやりと譲り合いの気持ちを持って、ゆとりある運転をしましょう。



啓発キャンペーンを実施

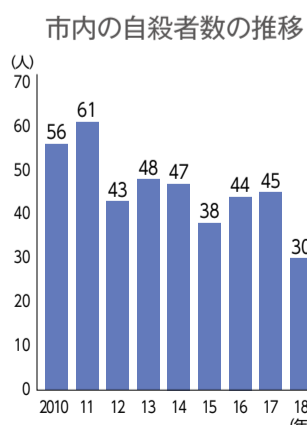
気付いて心のSOS 3月は自殺対策強化月間

環境が変わる3月は何かと考え事が多くなります。一人で悩まず、周りに相談してください。保健師や精神保健福祉士、臨床心理士が心の負担を減らすお手伝いをします。

臨床心理士による「いのちのサポート相談」

《日時》①3月5日、9~12時②3月16日、13~16時
《場所》保健福祉センター 《対象》市内在住の方
☎健康づくり課へ(要予約)。相談方法は、電話または面談を選べます。

無料



悩みは誰かと分け合えるもの

家族や友人など、身近な人の様子が普段と違うと思ったら、声を掛けてください。大切なのは、SOSを見逃さないこと。そして、悩みを抱えている人も打ち明けられた人も、一人で抱え込まないで気軽に相談に来てください。何ができるか、一緒に考えましょう。



臨床心理士
吉田 亜紀さん(54)

☎健康づくり課 ☎25-2201

年度末・年度初めは日曜も窓口をオープン



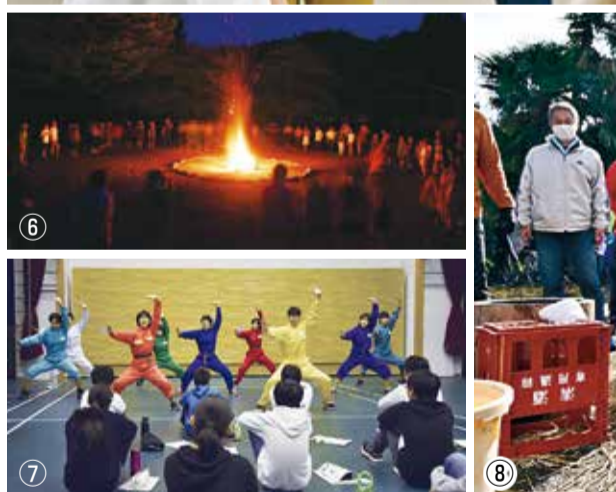
転入・転出が集中する期間中は、一部の窓口を土・日曜も開設します。

開設日	開設窓口	取り扱い業務など
3月28・29日、 4月4・5日 8時30分~12時	市民課 ☎225-2110	住民異動届(転出・転入・転居など)、印鑑登録、住民票の写しなど証明書の発行、マイナンバーカードの交付、戸籍に関する届け出、所得証明書の交付
	国保年金課 ☎225-2120	国民健康保険の加入・脱退などの届け出、被保険者証の発行、国民健康保険料納付書の発行、国民健康保険の給付申請など(後期高齢者医療を除く。国民年金は3月28日、4月4日のみ)
3月28・29日 8時30分~12時	学務課 ☎225-2650 (会場は市民課)	学区変更などで生じる、小・中学校の新入学手続き。当日の問い合わせは市民課 ☎225-2110へ。
	子育て給付課 ☎225-2230	医療証の発行、児童手当・児童扶養手当の申請など

※市民課と国保年金課は、祝日を除く毎週土曜の午前中に窓口を開設。介護保険など、土・日曜は取り扱いえない手続きもあります。事前に確認してください。



① ゲームを教えるながら子どもたちを楽しませる川瀬さん(左) ② 研修会ではカウンセラーの先輩ジュニアが後輩に活動の基礎やゲームの進め方などを指導。研修生は実際にゲームに取り組みながらやり方を覚える ③ 研修中に学んだことを小まめにメモする研修生 ④ カウンセラー(左)も一緒に考え、気付いたことを指導する ⑤ キャンプファイヤーもジュニアの活動の醍醐味。火の管理やゲーム進行など全てをジュニアが取り仕切る ⑥ ジュニアに受け継がれる「なりわい節」を研修生に伝えるカウンセラー ⑦ 子ども会の餅つき大会では大人に代わって子どもを補助(補助しているのが福島さん)



月1回開催される定例役員会では、各地区の代表が月ごとの活動を報告。会長である川瀬さんが会議を取り仕切る



ジュニアの相談に乗る青少年指導員の川田さん(左)。口を出し過ぎず、見守ることを心掛けている

「今では堂々として川瀬さんも、もともとはおとなしい子だった。ジュニアの活動をサポートする市青少年指導員の川田房江さん(64・飯山)は、そう振り返ります。小学生の頃、子ども会活動で見たジュニアの姿に憧れ入会した川瀬さんですが、初めは恥ずかしさで先輩ジュニアのように堂々と振舞えませんでした。「先輩のようにできない悔しさと、部活との両立が難しく感じてきたこともあり、辞めようか悩んだこともある。当時の川瀬さんにとっては、子どもに話し掛けるのも、

「見て。できた!」「やったね。上手だよ」。小鮎公民館の体育館に、子どもたちの弾んだ声が響きます。地域の小学生を集めた交流会の会場。子ども一人一人に気を配りながら、会を進行する後輩をさりげなくサポートするのは、小鮎地区ジュニアの会長・川瀬泰雅さん(17・宮の里)です。市内の全ジュニアをまとめる連絡協議会の会長も務めています。

人前でゲームをするのも、周りに促されてやっとの思いでした。ある日、妹が参加していた子ども会のイベントでのごと。一緒に来ていた母親の前でゲームを行い、子どもたちを楽しませました。帰宅後、母親から「いつの間にか人前であんなに堂々とできるようになったの。すごいね」と声を掛けられた川瀬さん。照れくさい反面、自分が少しずつ変われているという自信を持って」とはにかみます。そばで見守ってきた川田さんは「今では地域のイベントに呼ばれるとき、川瀬さんは来てくれますか」と声を掛けられることもある。子どもや後輩たちの面倒見も良くて、すっかり頼れるお兄さんになった」と目を細めます。

人前では堂々として川瀬さんも、もともとはおとなしい子だった。ジュニアの活動をサポートする市青少年指導員の川田房江さん(64・飯山)は、そう振り返ります。小学生の頃、子ども会活動で見たジュニアの姿に憧れ入会した川瀬さんですが、初めは恥ずかしさで先輩ジュニアのように堂々と振舞えませんでした。「先輩のようにできない悔しさと、部活との両立が難しく感じてきたこともあり、辞めようか悩んだこともある。当時の川瀬さんにとっては、子どもに話し掛けるのも、

「今では堂々として川瀬さんも、もともとはおとなしい子だった。ジュニアの活動をサポートする市青少年指導員の川田房江さん(64・飯山)は、そう振り返ります。小学生の頃、子ども会活動で見たジュニアの姿に憧れ入会した川瀬さんですが、初めは恥ずかしさで先輩ジュニアのように堂々と振舞えませんでした。「先輩のようにできない悔しさと、部活との両立が難しく感じてきたこともあり、辞めようか悩んだこともある。当時の川瀬さんにとっては、子どもに話し掛けるのも、

「今では堂々として川瀬さんも、もともとはおとなしい子だった。ジュニアの活動をサポートする市青少年指導員の川田房江さん(64・飯山)は、そう振り返ります。小学生の頃、子ども会活動で見たジュニアの姿に憧れ入会した川瀬さんですが、初めは恥ずかしさで先輩ジュニアのように堂々と振舞えませんでした。「先輩のようにできない悔しさと、部活との両立が難しく感じてきたこともあり、辞めようか悩んだこともある。当時の川瀬さんにとっては、子どもに話し掛けるのも、

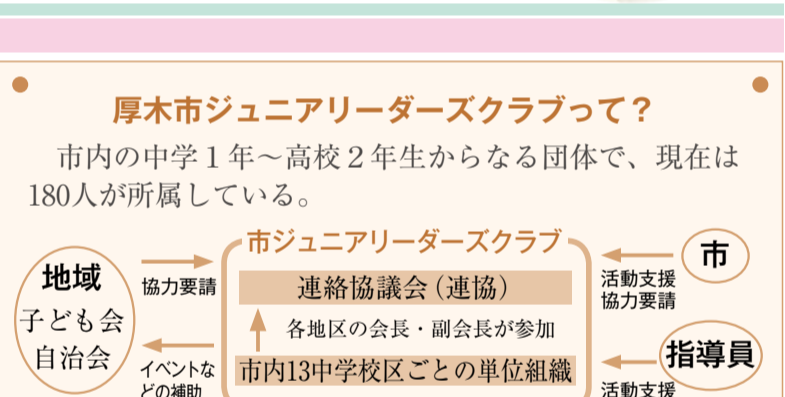
「今では堂々として川瀬さんも、もともとはおとなしい子だった。ジュニアの活動をサポートする市青少年指導員の川田房江さん(64・飯山)は、そう振り返ります。小学生の頃、子ども会活動で見たジュニアの姿に憧れ入会した川瀬さんですが、初めは恥ずかしさで先輩ジュニアのように堂々と振舞えませんでした。「先輩のようにできない悔しさと、部活との両立が難しく感じてきたこともあり、辞めようか悩んだこともある。当時の川瀬さんにとっては、子どもに話し掛けるのも、

「今では堂々として川瀬さんも、もともとはおとなしい子だった。ジュニアの活動をサポートする市青少年指導員の川田房江さん(64・飯山)は、そう振り返ります。小学生の頃、子ども会活動で見たジュニアの姿に憧れ入会した川瀬さんですが、初めは恥ずかしさで先輩ジュニアのように堂々と振舞えませんでした。「先輩のようにできない悔しさと、部活との両立が難しく感じてきたこともあり、辞めようか悩んだこともある。当時の川瀬さんにとっては、子どもに話し掛けるのも、

「今では堂々として川瀬さんも、もともとはおとなしい子だった。ジュニアの活動をサポートする市青少年指導員の川田房江さん(64・飯山)は、そう振り返ります。小学生の頃、子ども会活動で見たジュニアの姿に憧れ入会した川瀬さんですが、初めは恥ずかしさで先輩ジュニアのように堂々と振舞えませんでした。「先輩のようにできない悔しさと、部活との両立が難しく感じてきたこともあり、辞めようか悩んだこともある。当時の川瀬さんにとっては、子どもに話し掛けるのも、

「今では堂々として川瀬さんも、もともとはおとなしい子だった。ジュニアの活動をサポートする市青少年指導員の川田房江さん(64・飯山)は、そう振り返ります。小学生の頃、子ども会活動で見たジュニアの姿に憧れ入会した川瀬さんですが、初めは恥ずかしさで先輩ジュニアのように堂々と振舞えませんでした。「先輩のようにできない悔しさと、部活との両立が難しく感じてきたこともあり、辞めようか悩んだこともある。当時の川瀬さんにとっては、子どもに話し掛けるのも、

設立40周年 厚木市ジュニアリーダーズクラブ 地域を支える 若きリーダーたち



ジュニアリーダー(ジュニア)の役割。自主性を大切にする子ども会活動で、「大人と子どもの架け橋」として子どもたちの気持ちを代弁する役割を担う。大人の意見や子どもを一緒にやる、子どもの希望を具体的に説明、大人の力が重要なこととは協力を仰ぐ。

設立40周年記念事業 つながれみらいのJr.リーダー 市ジュニアの設立40周年を記念して、初代から現代までのメンバーが集い、祝う式典を開催します。

厚木市ジュニアリーダーズクラブ メンバーを募集 地域のお兄さん・お姉さんとして一緒に活動しませんか。

OB・OGに聞いたジュニアで学んだこと 失敗の大切さを学べる 七沢自然ふれあいセンター指導統括 林田昌明さん(39・松枝)

人を楽しませる喜びを学べる 2020年成人式実行委員長 飯森 彩理さん(20・下荻野)

いろいろな価値観を学べる 小学校教諭 大瀧 京さん(31・泉町)

ジュニアの活動では、多くの中学・高校生と接するので、自分にはなかった視点や考え方にたくさん触れ、視野を広げることができました。また、子どもに全力で物事に取り組んでもらうには、自分の全力の姿を見せなければならないということを学びました。当時の経験は、現在小学校の先生として働く上での基礎になっていると感じます。

伝統の劇に親しんで

あつぎ郷土博物館で開館1周年イベントを開催



軽妙な動きや音楽に、客席からは笑い
や拍手が起こった

博物館には1年で約4万3千人が来館。子どもたちをはじめ、多くの市民の皆さんから学びや遊びの場として親しまれています。

あつぎ郷土博物館の開館1周年を祝う記念イベントで、伝統芸能「相模里神楽」が披露されました。会場となった博物館には150人の観客が訪れ、江戸時代から伝わる芸能文化を楽しみました。相模里神楽は、日本の神話を題材にお面を着けて演じる無言劇で、市の無形民俗文化財にも指定されています。イベントでは、250年にわたり伝統を受け継ぐ相模里神楽垣澤社中が公演。親子で劇を見た平原珠乃さん(5)は「獅子舞に頭をかんでもらった。小判ももらえてうれしい」と喜んでいました。

真っ赤で甘い厚木の名産

市園芸協会がイチゴの出来を市長に報告



大粒で真っ赤なイチゴをPRした
内海部会長(中央)と杉山副部会長(左)

13軒の農家からなる市園芸協会いちご部会が、旬を迎えたイチゴの出来を小林市長に報告しました。市内では「章姫」や「紅ほっぺ」「おいしCベリー」など14種類のイチゴが栽培されています。市場への出荷はほとんどなく、イチゴ狩りと直売が中心のため、完熟した甘さが味わえます。都心から近くアクセスが良いので、県外からも毎年多くの家族連れなどが訪れています。内海則行部会長(64)は「今年は暖冬ということもあり順調に育っていて、いつもより大粒で味が良い」と報告。小林市長は「皆さんが手塩にかけて育てたイチゴはまちの自慢。市でも広くPRしていきたい」と話しました。



ニュージーランド NZに思いを届ける

北小学校の児童がホストタウン交流

ホストタウン交流事業の一環で、昨年、ニュージーランド(NZ)の中学・高校生とインターネットを使って交流した北小学校の児童たちが、お礼の手紙を書きました。約100人の児童が「オリンピック・パラリンピックが楽しみです」「厚木はとても楽しい所です」「北小学校に遊びに来てください」など、思い思いのメッセージを作成。中には英語に挑戦したり、NZの国旗やラグビーボールの絵を描いたりする姿も見られました。手紙を書いた児童たちは「オリンピックではNZを応援したい」「英語で書くのが大変だった。英語を使えるようになりたいと思った」と笑顔を見せました。



NZを思い浮かべながら手紙を書く児童たち

水害対策の強化を県に要望

6市町村の首長が集う県央相模川サミット



会長を務める小林市長は「自治体間の連携を強めて減災に取り組みたい」とあいさつ

昨年10月に発生した台風19号などを踏まえ、相模川周辺の市町村の首長と県の副知事が集まり、水害への対策を話し合いました。サミットでは、ダムの治水能力の強化や河川の整備、迅速な情報共有など10項目にわたる要望書を県へ提出。要望書を受け取った浅羽副知事は「頂いた要望は県として真摯に受け止め、しっかりと検証したい」と話しました。各首長からは「ダムの放流量や河川の水位などの重要な情報は、住民の避難行動にも直結するため、的確な提供をお願いしたい」などの意見が出され、今後も水害対策を最重要課題として取り組んでいくことを確認しました。

アツギ X ニュージーランド ホストタウン通信



調印したNZサッカー協会のラグネルCEO(右)と小林市長

ニュージーランド NZサッカー協会と 事前キャンプを合意

2月11日に荻野運動公園で、東京五輪に出場する男女サッカーNZ代表チームとの事前キャンプ調印式を開催しました。今回の調印で、夏に厚木市を訪れるNZのチームは、ゴルフ、バスケットボール、サッカー、車いすラグビーの4競技となり、全国のホストタウンの中でNZの選手を一番多く受け入れるまちとなりました。調印式でアンドリュー・ラグネルCEOは「厚木は自然豊かで美しいまち。きっと良いトレーニングができる」と期待を寄せました。

この日は調印式他、NZサッカー協会によるサッカー教室も実施。集まった150人の子どもたちは「世界レベルの技術を教えてもらえて勉強になった」「優しく教えてくれてうれしかった」と元プロ選手らとの交流を楽しんでいました。

2020年東京五輪・パラリンピックに向けて、ホストタウンとなったニュージーランド(NZ)との交流事業を紹介します。

ひとまち 元気

市長 小林 孝良



完成を心待ちにしていた親子と

皆さんは市内に公園がいくつあるか知っていますか。正解は239カ所、合計すると東京ドーム約39個分の広さになります。公園は子ども遊び場や住民同士の憩いの場として、地域に欠かせないものです。2017年から工事を進めていたあさひ公園もその一つ。地下の雨水貯留施設の整備に続き公園のリニューアル工事も終え、2月24日には、皆さんのご協力への感謝を込め、完成を心待ちにしていた親子と

皆さんを守ってくれる心強い公園に生まれ変わりました。公園には新しい遊具、芝生の広場やイベントにも使用できる多目的広場を整備。幼児から大人まで幅広い年代の方が憩い、楽しめる公園になっています。皆さんの笑顔を生み、その笑顔で災害から守るあさひ公園。これからも皆さんに親しまれる公園になることを期待しています。

成式典を行いました。昨年8月末に完成した雨水貯留施設は、全国的に甚大な被害をもたらした台風19号の際、小学校のプール約40杯分の雨水を地下空間いっぱい貯めて、効果を発揮。今後も増える予想されている水害などの脅威から

タウンガイド

3月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

4月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

☑=申し込み ☎=問い合わせ ☎=電話番号
 ㊚=ファクス番号 ✉=Eメール HP=ホームページ
 📍=マイタウンクラブ(📍印の番号で、ウェブ上から詳しい情報を確認できます。「📍☑」と記されたものは、申し込み可)
 市役所への郵便物は「〒243-8511〇〇課」で届きます。

あつぎのしゃしん。



「早咲きの梅」

#1月29日撮影
 #若宮公園
 #梅の花
 #niceatsugi
 広報課公式Instagramで公開中



あなたの感想
待ってます

インターネットモニターを募集

「広報あつぎ」や市広報番組「あつぎ元気Wave」に意見を寄せていただくモニターを募集します。

《対象》市内在住在勤在学の16歳以上で、Eメールの送受信とケーブルテレビまたはインターネットでの動画視聴ができる方

《内容》毎月1回のアンケートに、意見や感想などを回答

☑市HPから随時受け付け。

厚木市 インターネットモニター 検索

☎広報課 ☎225-2043

パソコンやスマートフォンから簡単に回答できる

ミューあつぎ。吉本興業の人気お笑い芸人(ジョイマン、ゆったり感、ヨッシャ比留間、スカチャン、ネイチャーバーガー)によるライブ。定員110人。500円。☑3月1日から厚木市まるごとショップあつまるや商業にぎわい課でチケットを販売。

いずれも先着順。☎商業にぎわい課 ☎225-2834。



ブックスタート

①3月17日、10時15分～11時45分=荻野新宿児童館②3月18日、10時30分～11時30分=あつぎ市民交流プラザ③4月8日、11時30分～12時=保健福祉センター④4月15日、10時30分～11時30分=あつぎ市民交流プラザ。読み聞かせの方法や年齢に応じた絵本を5分程度で紹介し、1冊進呈。市内在住で2018年4月2日以降に生まれた赤ちゃんと保護者(赤ちゃん1人につき1回)。生後4か月頃からが最適。無料。母子健康手帳をお持ちください。☑当日直接会場へ。都合の悪い方は事前に予約し、毎月第2・3木曜の11～12時、14～15時に中央図書館で受けられます。☎中央図書館 ☎223-0033。

学校給食センター運営委員会委員を募集

給食費や設備の充実などを審議する委員を募集します。

《対象》①市内在住在勤在学または市に納税義務があり、応募日現

在18歳以上②平日昼間の会議(年2回程度)に出席できる③他の審議会などの委員でない④市の議員・職員でない—の全てを満たす方3人《任期》6月1日～(1年間)《報酬》日額7800円(交通費含む)。☑学校給食課や市HPにある申込書を、直接または郵送、ファクス、Eメールで3月31日(必着)までに〒243-0211三田172北部学校給食センター ☎225-2653・㊚243-1018・✉8250@city.atsugi.kanagawa.jpへ。書類選考あり。

市ホームページバナー広告の掲載事業者を募集

市HPのトップページ下部に広告を掲載する事業者を募集します。

《対象》事業者または広告代理業者《費用》5カ月まで=月3万円、6カ月以上(連続)=月2万7000円、12カ月(連続)=月2万4000円。☑情報政策課や市HPにある申込書を、直接または郵送で〒243-8511情報政策課 ☎225-2459へ。随時受け付け。

(仮称)産業振興推進委員会の委員を募集

市の産業振興施策の推進に関する事項を調査・審議する委員を募集します。

《対象》①市内在住在勤在学の18歳以上②平日昼間の会議(年5回程度)に出席できる③他の審議会などの委員でない④市の議員・職員でない—の全てを満たす方2人《任期》委嘱の日から2年間《報酬》日額7800円(交通費含む)。☑産業振興課や市HPにある申込書を、直接または郵送、ファクス、Eメールで4月1日(必着)までに〒243-8511産業振興課 ☎225-2832・㊚223-7875・✉3900@city.atsugi.kanagawa.jpへ。書類選考、面接あり。

厚木の魅力をPRする動画が完成しました。3月23～29日に小田急線の車内テレビで放映します。ぜひご覧ください。☎企画政策課 ☎225-2450

わくわくクラシック鑑賞術講座・完結編

3月15日、14時～15時30分。あつぎ市民交流プラザ。クラシック音楽をコンサート形式で学ぶ。定員30人。300円(既受講者は無料)。☑3月2日、9時から電話で厚木うきうきクラシック・杉田 ☎090-8688-3659へ(既受講者は申し込み不要)。先着順。☎文化生涯学習課 ☎225-2508。

市民ふれあいマーケット

3月15日、9時～13時30分(雨天中止)。厚木中央公園。130店舗が日用雑貨や衣料品などを販売。☎環境政策課 ☎225-2749。

ミニChikaフェス

3月14日、10～16時。本厚木駅前東口地下道。ストリートマーケット、けん玉教室、皿回しチャレンジコーナー、紙皿を使った絵本作

り、ロボットバトルトーナメント(小学生。500円)など。無料。☑当日直接会場へ。ロボットバトルトーナメントは3月13日までにロボットゆうえんち ☎080-4081-6371へ(当日参加可)。☎企画政策課 ☎225-2450。



青春劇場

■ほんわかオカリナコンサート
 3月14日、12時30分～15時30分。あつぎ市民交流プラザ。定員150人。無料。☑当日直接会場へ。
 ■よしもとお笑いライブ
 3月20日、13時30分～15時。ア

#niceatsugi 写真展

皆さんがSNSでハッシュタグ「#niceatsugi」を付けて投稿した写真を集めた写真展を開催します。いろいろな視点で見つけられた「素敵なあつぎ」で、まちの魅力を再発見しませんか。

☎企画政策課 ☎225-2450

期間 3月9～22日 10時～20時30分
 会場 本厚木ミロード4階 スカイロード
 内容 ハッシュタグ「#niceatsugi」を付けて投稿された写真や、「#niceatsugi」大賞受賞作品の展示

#niceatsugi大賞

ハッシュタグ「#niceatsugi」を付けてSNSに投稿された写真・動画の中から、毎月大賞を選び、市HPや本厚木・愛甲石田駅前デジタルサイネージ「あつナビ」などで公開しています。

☎広報課 ☎225-2040

インターネットモニターからの意見を紹介



インターネットモニター募集
 厚木市 インターネットモニター 検索

☎広報課 ☎225-2043

2月1日号「広報あつぎ」を読んで

◆子どもたちに郷土の味を知ってもらい継承されていくと良い/30代女性 ◆駅近くに駐輪場ができるのはとても便利で時間短縮になる/60代男性 ◆公共施設予約システムが新しくなり、使いやすくなるとうれしい/50代女性 ◆民話に知っている地名が出てくると引き込まれる/40代女性 ◆たくさんの民話を知ることができて興味深い。場所を訪ねてみたくなった/60代男性 ◆毎年桜まつりを楽しみにしている/30代女性

編集後記

小淵地区の交流会で、一つの催し後に子どもたちが「もう一回やりたい」と口をそろえる場面がありました。まだ別のゲームが控えていただけでなく、その催しは事前に準備が必要なものでしたが、ジュニアたちは急遽プログラムを変更。準備の間もアドリブで場を盛り上げていました。子どもたちのために今できる最大限の工夫をするジュニアの姿は頼もしく、彼らの将来を思うと、とても心強く感じました/野本

第56回 あつぎ飯山桜まつり

「飯山白山森林公園」を今年も満開のサクラが彩ります。女性が担ぐ「さくら輿」や地元で伝わる白龍の舞などイベントも盛りだくさん。ぜひご来場ください。 ☎観光振興課 ☎225-2820

期間 3月28日～4月5日

場所 飯山白山森林公園周辺

28日(土) 小鮎中吹奏楽部演奏、飯山温泉花見おどり、ダンスコンテスト、飯山白龍太鼓

29日(日) あつぎ太鼓まつり、まちかど大道芸、飯山白龍太鼓・白龍の舞

4日(土) トレイルチャレンジスプリント10キロ、ミュージックフェスティバルステージ

5日(日) さくら輿、飯山花音頭パレード、あゆコロちゃんキャラクターステージ、飯山白龍太鼓

サクラのライトアップ

期間中の18～20時(28・4日は21時まで)



詳しくは▶



白龍の舞



さくら輿



サクラのライトアップ



【バスで越しの方】

本厚木駅北口5番バス乗り場から「上煤ヶ谷」「宮ヶ瀬」「上飯山」行きに乗車。「飯山観音前」で下車し、徒歩10分。会場付近は大変混雑しますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。

サクラの名所で春を楽しんで



実行委員長 石川 義仁さん (54・飯山)

「かながわ花の名所100選」に選ばれた飯山のサクラを、ぜひご覧ください。祭りでは、歴史と伝統を大切にしながら、ダンスや音楽ライブなども開催しますので、楽しんでいただければと思います。

幅広い世代が集える憩いの場へ あさひ公園がリニューアル

2017年から整備を進めてきたあさひ公園が完成しました。子どもから大人まで楽しめる遊具や広場などを設置し、幅広い世代が楽しめるようになりました。



公園の新しいシンボル。大きな木をイメージした大型複合遊具

☎公園緑地課 ☎225-2410

地下は雨水貯留施設

子どもたちに人気の遊具もリニューアル

大人も楽しめる健康遊具

アクセス 駅南口から徒歩6分

自然歳時記

● エナガ ● エナガ科

体長13.5センチ、体重8グラムほどのとても小さな鳥。か細い声で「ツィーチリリ」と鳴くが、群れになると「ジュリ、ジュリ」とにぎやかだ。あつぎこどもの森公園、オオバヤシャブシの枝先で見つけた。 写真・文/吉田文雄



「ジュリ、ジュリ、ジュリ」と鳴きながらエナガの群れがやって来た。芽吹き始めたオオバヤシャブシが若草色に染まり、春の光の中でとても新鮮に見えた。黒く見えるオオバヤシャブシの小さな実がまだ残っているのか、エナガたちは盛んについばんでいた。雄花は長く伸び春の到来を感じさせた。

細い枝に止まったエナガが、茶色に枯れた葉から何かを引き出していた。よく見ると、ガの作った繭から出る絹のように艶のある暖かそうな糸だった。集めたコケ類や地衣類をこの糸で上手に紡ぎ、子育てのための巣を作るのだ。 綿を丸めたようなかわいいエナガから、多くの知恵を学んだ。

厚木市の人口 (2月1日現在)

世帯数 10万512世帯 (前月比18世帯減)

人口 22万4411人 (前月比125人減) 男11万6113人・女10万8298人